

植物成長調整剤使用指針

使用に際しては、同一成分を含む農薬の総使用回数に注意すること

注:ジベレリン[溶]…ジベレリン水溶剤

=ジベラ錠・ジベラ錠5・ジベレリン(溶)・ジベレリン錠剤・ジベレリン粉末
ジベレリン[*溶]…ジベレリン水溶剤のうち、ジベレリン錠剤を除く

1. 野菜に対する植物成長調整剤使用指針

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法
畑ワサビ	花茎の抽出時期促進及び発生量増加		ジベレリン液剤・[溶]	花芽分化後の10月下旬(第1回目)及び第1回目処理後約10日後の11月上旬(第2回目)(収穫60日前まで)	第1回目 100ppm 第2回目 100ppm 株の中心部に2mL散布 2回
ウド	休眠打破による生育促進	春ウド	ジベレリン液剤・[*溶]	伏込時	50ppm 20~25mL/株 根株散布 または50~100ppm 根株浸漬 1回
スイカ	着果促進		塗布用ビーエー(塗)	開花当日	1mL/100果 原液
			塗布用ベアニン(塗)	開花当日	果梗部に塗布 1花あたり 1回
			フルメット液剤	開花前日又は開花当日	100~500ppm 果梗部塗布 1回
				開花当日	10~20ppm 0.3~0.5mL/子房 子房部散布 1回
トマト	空どう果防止		ジベレリン液剤・[*溶]	開花時	10ppm 5mL/花房 花房散布 1花房あたり 1回 落果防止剤と併用
	熟期促進	生食用	エスレル10(液)	各果房毎の白熟期	300~500倍 5mL/果房 果房散布 1果房につき 1回
	着果促進 果実肥大促進、熟期促進		トマトトーン(液)	開花前3日~開花後3日位(1花房で3~5花位開花した時期)	20℃以下で50倍 20℃以上で100倍 で散布 1花房あたり 1回
	放射状裂果軽減		フルメット液剤	幼果期	5~20ppm 1果房あたり 1回
ミニトマト	熟期促進		エスレル10(液)	各果房毎の白熟期	300~500倍 5mL/果房 果房散布 1果房につき 1回

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法
(ミニトマト)	着果促進 果実肥大 促進、熟 期促進		トマトト ーン(液)	開花前3日 ～開花後3日位	20℃以下で50倍 20℃以上で100倍 散布 1花につき 1回
ナス	着果数増 加		ジベレリン 液剤・[*溶]	開花時	10～50ppm 葉面散布 1回*1
	着果促進 果実肥大 促進、熟 期促進		トマトト ーン(液)	開花当日	50倍 散布 1花房あたり 1回
イチゴ	第1果房 肥大期の 生育促進		サンキャッ チ液剤30S	定植翌日及び2 週間後又は定植 2週間後及び4 週間後	200倍 100～300L/10a 茎葉散布 2回
	果柄の伸 長促進		ジベレリン 液剤・[溶]	頂花の出蕾直後 ～開花直前	10ppm 株の中心部に5mL 散布 1花房あたり 1回
	ランナー 発生促進	親株床		採苗時ランナー 発生直前～発生 初期	50ppm 10mL/株 茎葉散布 1株あたり 1回
	着果数増 加、熟期 促進	促成栽培		休眠に入る直前 (冬場の低温期)	10ppm 5mL/株 茎葉全面散布 1株あたり6回以内
	初期生育 の促進		アルムグリ ーン(液)	育苗期	500倍 200mL/株 土壌灌注 8回以内
	生育後期 の伸長抑 制	促成栽培	ビビフルフ ロアブル	葉柄徒長期 (但し収穫前日 まで)	400～600倍 10～25mL/株 茎葉散布 3回以内
	葉柄伸長 抑制によ る苗の徒 長防止			苗の低温暗黒処 理7日前～当日	200～500倍 5～10mL/株 茎葉散布 1回以内
			定植前30～50日	500倍 5～10mL/株 茎葉散布 1回以内	
アスパ ラガス	萌芽促進	夏秋どり	ビーエー液 剤	慣行最終収穫予 定日の10～30日 前(但し、収穫前 日まで)	300～600倍 100～300L/10a 茎葉散布 1回
タマネ ギ	肥大促進	秋播露地 栽培	サンキャッ チ液剤30S	球肥大初期 (3～5葉期、 球径1～2cm)	200～300倍 100～300L/10a 茎葉散布 1回

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法
葉ネギ	生育促進	春播夏どり	サンキャッチ液剤30 S	収穫30日前まで	300倍 100～300 L/10 a 茎葉散布 1回
サツマイモ	肥大促進		サンキャッチ液剤30 S	苗植付後30～50日	200～300倍 100～300 L/10 a 茎葉散布 1回

*1：種子処理を伴う場合は1回

2. 果樹に対する植物成長調整剤使用指針

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法
ナシ	収穫前落果防止	青ナシ	ストップボール液剤	収穫開始予定日の14～7日前	1500～2000倍 200～300 L/10 a 立木全面散布 1回
		赤ナシ (但し王秋除く)		収穫開始予定日の14～7日前	2000～3000倍 200～300 L/10 a 立木全面散布 1回
			ヒオモン溶	収穫開始予定日の21～4日前	1000～2000倍 200～300 L/10a 立木全面散布 2回以内
	熟期促進 果実肥大促進	日本ナシ	ジベレリンペースト (塗)	満開30～40日後	20～30mg/果 果梗部塗布 1回
	熟期促進	幸水 豊水 新水 二十世紀	エスレル 10(液)	①果実の横径30～35mm (満開後60～70日頃 収穫14日前まで) ②果実の横径が60mm以上の時期(満開後100日頃 収穫14日前まで)	①4000倍 ②1000～2000倍 200～300 L/10 a 立木全面散布 1回
		新興 長十郎、豊水、 二十世紀、新水、 幸水、新興を除く	果実の横径が60mm以上の時期 (満開後100日頃 収穫14日前まで)		
	果実肥大促進	幸水	フルメット液剤	満開10～20日後	10～15ppm 果実散布 1回
	みつ症軽減	豊水		満開期	2 ppm 果そう散布 1回
	花芽形成促進(徳木用)	新興	エスレル 10(液)	①果実の横径が30～35mmの時期(満開後60～70日頃、但し収穫14日前まで) ②果実の横径が60mm以上の時期(満開後100日頃)(但し、収穫14日前まで)	①2000倍 ②1000倍 200～300L/10a 立木全面散布 1回

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法	
リンゴ	高接1年枝側芽発生促進		ビーエー液剤	伸長旺盛期(6月上旬以降)	50~100倍 200~700L/10a 立木全面散布 1回	
	側芽発生促進	苗木	ビーエー液剤	新梢伸長時	50~100倍 5~10mL/苗木 新たに伸長した新梢部に散布 10回以内	
	摘花		エコーキー(溶)	満開日、追加散布を要する場合は2~3日後に1回	100~150倍 300~600L/10a 立木全面散布 2回以内	
	摘果		ミクロデナポン水和剤85	満開後1~4週間	1200倍 200~700L/10a 散布 2回以内	
	収穫前落果防止			ストップール液剤	収穫開始予定日の25~7日前(但し、2回散布の場合は10日程度間隔をあける)	1000~1500倍 300~600L/10a 立木全面散布 2回以内
				ヒオモン溶	収穫開始予定日の21~4日前	1000~2000倍 300~600L/10a 立木全面散布 2回以内
	着色促進		ジャスマート液剤	収穫開始予定日の30~25日前(但し、収穫14日前まで)	500倍 200~700L/10a 立木全面散布 1回	
摘葉		ジョンカラープロ(水)	収穫30~50日前	500~1500倍 200~700L/10a 散布 1回		
イチジク	熟期促進		エスレル10(液)	成熟予定15日前(果実生長第2期終期)	500~1000倍 果面散布(果面が濡れる程度) 1果当たり 1回	
カキ	熟期促進	富有	エスレル10(液)	着色開始期	4000~5000倍 200~300L/10a 立木全面散布 1回	
		松本早生富有			4000倍 200~300L/10a 立木全面散布 1回	
	熟期促進	前川次郎	エスレル10(液)	着色開始期	5000倍 100~200L/10a 立木全面散布 1回	

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法
(カキ)	着色促進		フィガロン 乳剤	満開70～80日後 及びその15～20 日後	5000倍 300～500L/10a (葉先から滴り始め る程度) 立木全面散布 2回
	落果防止		ジベレリン 液剤・溶 剤・粉末	満開10日後	12.5～200ppm 30～100L/10a 幼果及びへたに散 布 1回
キウイ フルーツ	果実肥大 促進		フルメット 液剤	開花後20～30日	1～5ppm 果実浸漬または果 実散布 1回
ブドウ	無種子化		ストマイ液 剤20	満開予定日14日 前～開花始期	1000倍(200ppm) 散布または花房浸 漬 1回
				満開予定日14日 前～満開期	1000倍(200ppm) 花房浸漬(1回目ジ ベレリン処理と併 用) 1回
		サニール ージュを 除く巨峰 系4倍体 品種(無 核栽培)	ジベレリン [溶]	満開時～満開3 日後	12.5～25ppm花房浸 漬(満開10～15日後 にホルクロルフェ ニユロンによる果 粒肥大促進処理を 行う) 1回 ^{*2}
	無種子 化、果粒 肥大促進	ヒムロッド シードレス を除く2倍 体米国系品 種(無核栽 培)		満開時予定日14 日前(第1回 目)及び満開約 10日後(第2回 目)	第1回目:100ppm 花房浸漬 第2回目:75～100 ppm 果房浸漬または果 房散布 2回 ^{*3}
		サニール ージュを 除く巨峰 系4倍体 品種(無 核栽培)		満開時～満開3 日後(第1回 目)及び満開10 ～15日後(第2 回目)	第1回:12.5～25ppm 花房浸漬 第2回:25ppm 果房浸漬 2回 ^{*3}
				満開3～5日後 (落花期)	25ppm 花房浸漬 (ホルクロルフェニ ユロン 10ppm加用) 1回 ^{*2}
	無種子 化、果粒 肥大促進	2倍体欧 州系品種 (無核栽 培)	ジベレリン [溶]	満開時～満開後3 日(第1回目) 及び満開10～15 日後(第2回目)	第1回:25ppm 花房浸漬 第2回:25ppm 果房浸漬 2回 ^{*3}

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法	
(ブドウ)	果粒肥大促進	サニールージュを除く巨峰系4倍体品種(無核栽培)	フルメット液剤	満開3～5日後(落花期)	10ppm花房浸漬(ジベレリンに加用) 1回 *2	
		2倍体欧州系品種(無核栽培)		満開10～15日後	5～10ppm果房浸漬(ジベレリンに加用または単用) 1回 *2	
		2倍体米国系品種(無核栽培)		満開10～15日後	ジベレリンに加用果房浸漬 1回 *2	
		デラウェア(無核栽培)		満開約10日後	5～10ppm果房浸漬(ジベレリンに加用) 1回 *2	
		2倍体欧州系品種、3倍体品種(無核栽培)		満開約10日後	3～5ppm果房浸漬(ジベレリンに加用) 1回 *2	
		マスカット・オブ・アレキサンドリアを除く2倍体欧州系品種、巨峰系4倍体品種(有核栽培)		満開10～15日後	5～10ppm果房浸漬(ジベレリンに加用) 1回 *2	
		キャンベルアーリーを除く2倍体米国系品種(有核栽培)		満開15～20日後	5～10ppm果房浸漬 1回 *2	
		ヒムロッドシードレス		ジベレリン [溶]	満開10～15日後	50ppm果房浸漬 1回 *2
		高尾			着粒後	100ppm果房浸漬 1回 *2
	果粒肥大促進	ヒロハンブルグを除く2倍体欧州系品種(有核栽培)		満開時～満開7日後	50～100ppm、花房又は果房浸漬 1回 *2	
			満開10～20日後	25ppm果房浸漬 1回 *2		

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法
(ブドウ)	着粒安定、果粒肥大促進	キングデラ、ハニーシードレス、BKシードレスを除く3倍体品種	ジベレリン [溶]	満開時～満開3日後（第1回目）及び満開10～15日後（第2回目）	第1回:25～50ppm 花房浸漬 第2回:25～50ppm 果房浸漬 2回 *2
	着粒安定	サニールージュを除く巨峰系4倍体品種、2倍体欧州系品種、3倍体品種	フルメット液剤	開花始～満開前または満開時～満開3日後	2～5ppm 開花始～満開前は花房浸漬 1回 *2 無核栽培 2～5ppm 満開時～満開3日後は花房浸漬（ジベレリンに加用） 1回 *2 無核栽培
	花ぶるい防止	巨峰（露地栽培）	エスレル10(液)	新本葉6～7枚展葉時	6000倍 100L/10a 立木全面散布 1回
	着粒増加 新梢伸長抑制	巨峰（露地栽培）	フラスター液	新梢展開葉7～11枚（開花始期まで）	1000倍 300L/10a もしくは 500～800倍 100～150L/10a 散布 2回
	着粒増加 新梢伸長抑制	巨峰系4倍体品種（巨峰を除く）、3倍体品種、2倍体米国系品種（テラネアを除く）		新梢展開葉7～11枚（開花始期まで）	500～800倍 100～150L/10a 散布 2回
	2倍体欧州系品種	1000～2000倍 100～150L/10a 散布 2回			
	着色促進	巨峰	ジャスモート液剤	満開後35～40日（但し、収穫30日前まで）	500倍 200～700L/10a 果房散布 1回
	ピオーネ	アブサップ液剤	着色始期～着色開始2週間後	100～200倍 1果房当たり2～10mL 果房散布 1回	
落葉促進		エスレル10(液)	収穫後～剪定前	500～1000倍 150～250L/10a 立木全面散布 1回	

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法	
(ブドウ)	休眠打破による新梢の萌芽促進および発芽率の向上		C X-10(液)	収穫後発芽前	10～20倍 150～200 L/10 a 1回 もしくは 15～20倍 150～200 L/10 a 2回以内 結果母枝に散布または塗布	
			ヒットα10(液) ヒットα13(液)		α10…10～20倍 α13…15～30倍 150～200 L/10aを結果母枝への散布または塗布 2回以内	
カンキツ	新梢発生促進	温州みかん	ビーエー液剤	萌芽直前～萌芽期(加温ハウス栽培園で収穫後)	100～200倍 200～700 L/10 a 緑枝部へ散布 1回	
	新梢伸長抑制		バウンティフロアブル	新梢発芽前(1月下旬)～新梢発芽5mm以下(春期)	250～500倍 200～300 L/10 a 茎葉散布 1回	
	夏秋梢伸長抑制		フィガロン乳剤	新梢萌芽期(ただし収穫14日前まで)	1000～2000倍 250～500 L/10 a (葉先から滴り始める程度) 立木全面散布 1～2回	
	全摘果				生理落果最盛期(満開10～20日後)	1000～2000倍 250～500 L/10 a (葉先から滴り始める程度) 摘果したい部分に散布 1回
				エスレル10(液)		2000～8000倍 250～500 L/10 a フィガロン乳剤の1000～2000倍液に混合して摘果したい部分に散布 1回
	間引摘果		フィガロン乳剤	満開20～50日後で生理落果のある時	1000～2000倍 250～500 L/10 a (葉先から滴り始める程度) 立木全面散布 1回	
浮皮軽減				1回目: 蛍尻期 2回目: 蛍尻期の2週間後(但し、収穫7日前まで)	2000～3000倍 250～500 L/10 a (葉先から滴り始める程度) 立木全面散布 2回	
パパイヤ	果実肥大促進		ジベレリンペースト(塗)	開花期	25mg/1花 花梗部塗布 1花当たり 1回	

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法
スモモ	着果安定	貴陽	ジベレリン [溶]	満開20～30日後 (第1回目) 満開50～60日後 (第2回目)	100～200ppm 20～50 L/10 a 果実散布 2回

*2: 1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内

*3: 2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内

3. 花き類・観葉植物に対する植物成長調整剤使用指針

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法
花き類 (リンドウを除く)	発芽促進		ジベレリン 液剤・[溶]	播種前	50～200ppm 種子浸漬 1回
花き類 観葉植物 (カーネーション、キクおよびチューリップを除く)	挿し木の発根促進及び発生根数の増加		オキシベロン液剤		2倍(1000mL/水1L)5～10秒、または200～400倍(5～2.5mL/水1L)12～24時間 さし穂基部浸漬 1回
花き(キク、ゼラニウム等)	挿し木(挿苗)時処理をして発根を促進する		ルーション(塗)	挿し木時	挿木(挿苗)の基部を3cmぐらい水にひたし、その部分にうすい層になって付着する程度に粉のまままぶす。 或いは本剤を適量の水でペースト状に練ってから挿木の切口に塗りつける。 日陰干で乾燥してから挿す。挿木(挿苗)にあまり多量に厚く塗布しないようにすること。挿し終わったら周囲に土をかけてよく固めておくこと。
アイリス	生育促進		ジベレリン 液剤・[溶]	植付時	50～100ppm 球根浸漬 1回
アゲラタム	茎葉の伸長抑制による小型化		スミセブンP液剤	育苗期(本葉2～4葉期)	5～10倍 0.5mL/株 茎葉散布 1回
アサガオ	節間の伸長抑制	施設栽培	ビーナイン顆粒水溶剤	本葉5～7枚の時	400～800倍 50～150 L/10a 茎葉散布 1回

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法
アザレア	節間の伸長抑制	施設栽培	ビーナイン顆粒水溶剤	摘芯後30～40日	150倍 50～150 L/10a 茎葉散布 1回
				摘芯後30～120日	200～400倍 50～150 L/10a 茎葉散布 3回以内
	開花促進		ジベレリン液剤・[溶]	開花予定日約1ヶ月前	250～500ppm 30～40 L/10a 茎葉散布 1回
インパチェンス	茎葉の伸長抑制による小型化		スミセブンP液剤	鉢上後	10倍 2 mL/株 茎葉散布 1回
カーネーション	さし木の発根促進及び発生根数の増加		オキシベロン液剤		200～400倍(5～2.5mL/水1 L)16～24時間さし穂基部浸漬、あるいは2倍(100mL/水1 L)5秒間さし穂基部浸漬または10mL/100本をさし穂基部散布 1回
			オキシベロン粉剤0.5		製剤10 g 当り処理本数: さし穂の直径8～6mm 約100～200本、6～4mm 約200～300本、4～2mm 約300～400本、2mm以下 約400～500本 さし穂基部(切り口から約1 cm)に粉衣 1回
	徒長防止及び伸長抑制		バウンティフロアブル	生育期(新梢伸長期)	5000～10000倍 50～100L/10a 茎葉散布 3回以内
カラー	生育促進	ジベレリン(溶)とジベレリン粉末は、湿地栽培を除く	ジベレリン液剤・[溶]	植付時	50ppm 球根浸漬 1回
				花茎伸長期	50ppm 50～150 L/10a 茎葉散布 1回
キク	親株栽培における側枝への腋芽の着生促進		ビーエー液剤	摘心時	2000～4000倍 100～300 L/10a 茎葉散布 6回以内
	さし木の発根促進および発生根数の増加		オキシベロン液剤		500～1000倍(2～1mL/水1 L)3時間、あるいは2倍(100mL/水1 L)10秒間さし穂基部浸漬、または100～200倍(5～10mL/水1 L)5～10秒さし穂全体浸漬 1回

植物成長調整剤使用指針

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法
(キク)	さし木の発根促進および発生根数の増加		オキシベロン粉剤0.5		「カーネーション」に対する「オキシベロン粉剤0.5」と同じ
	節間の伸長抑制	切花用施設栽培	ビーナイン顆粒水溶剤	生育期	500～5000倍 50～150 L/10 a 茎葉散布 4回以内
		ポットマム	スミセブンP液剤	摘心10日後頃	25～50倍 5～10mL / 5号鉢 (原液0.1～0.2mL/5号鉢) 茎葉散布、または50～100倍 50～100mL/5号鉢 (原液1 mL/5号鉢) 土壌灌注 2回以内
		ポットマム施設栽培	ビーナイン顆粒水溶剤	摘心後10～7日または定植3日後から発蕾初期	200～400倍 5～10mL/5号鉢 茎葉散布 3回以内
	花首の伸長抑制	切花用施設栽培	ビーナイン顆粒水溶剤	発蕾期～摘蕾期	500～5000倍 50～150 L/10 a 茎葉散布 2回以内
			ビビフルフロアブル	摘蕾期	200～500倍 50～100 L/10 a 茎葉散布 1回
				発蕾期および摘蕾期	200～500倍 50～100 L/10 a 茎葉散布 2回
	開花促進 草丈伸長促進		ジベレリン液剤・[溶]	生育期	25～100ppm 50～100 L/10 a 茎葉散布 2回以内
	開花抑制		エスレル10(液)	摘芯時または定植後1週間以内及びその後10～14日毎	500～1000倍 2～10mL/株(株全体がぬれる程度) 全面散布 3回以内
	早期不時発蕾防止	電照栽培		親株摘芯時	500倍 2～10mL/株(株全体がぬれる程度) 全面散布 3回以内
キンギョソウ	茎葉の伸長抑制による小型化		スミセブンP液剤	育苗期(本葉2～4葉期)	50倍 0.5～1 mL/株 茎葉散布 1回
ケイトウ		25倍 0.5mL/株 茎葉散布 1回			
サルビア		12.5～25倍 0.5mL/株 茎葉散布 1回			

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法
シクラメン	開花促進		ジベレリン液剤・[*溶]	9月中・下旬	1~5ppm 2~5mL/株 花蕾を含む芽の中心部に散布 1回
	花梗・葉柄の伸長抑制	施設栽培	ビーナイン顆粒水溶剤	花芽揃期 花梗再伸長時	7mL/4号鉢 300倍 茎葉散布 1回 7mL/4号鉢 300倍 茎葉散布 2回以内
シラン	開花促進 草丈伸長促進		ジベレリン液剤・[*溶]	植付時	50ppm 30分間株浸漬 1回
ストック	開花促進		ビビフルフロアブル	薬数10~14枚時とその7~10日後	1000倍 100 L/10 a 茎葉散布 2回
スパティフィラム	開花促進		ジベレリン液剤・[溶]	出荷予定期の2~3ヶ月前	250~500ppm 30~40 L/10 a 茎葉散布 1回
チューリップ	開花促進	促成栽培	ジベレリン液剤・[*溶]	草丈7~20cmの時に7日間隔	400ppm 1 mL/球 筒状の葉の中心部に滴下 2回以内
	花丈伸長促進及び茎の肥大促進		フルメット液剤	草丈7~10cm時	0.05~0.1ppm ジベレリン100ppm 液に加入 葉筒内滴下 1回
	花茎基部の伸長		オキシベロン液剤	第1葉の長さが9~10cmの時期	20~40倍 (50~25 mL/水1 L) 1 mL/株 葉間に滴下 1回
テッポウユリ	休眠打破	促成栽培	ジベレリン液剤*4・粉末	低温処理前	1000ppm 30秒間 球根浸漬 1回
トルコギキョウ	生育促進		ジベレリン液剤・[溶]	生育期間中にロゼット化した時	50~100ppm 30~40 L/10 a 茎葉散布 1回
ニチニチソウ	茎葉の伸長抑制による小型化		スミセブンP液剤	定植後(本葉3~4節時)	50倍 0.5~1mL/株 茎葉散布 1回
ハボタン	節間伸長抑制	施設栽培	ビーナイン顆粒水溶剤	鉢上げ後または子葉展開後	200~400倍 50~150 L/10a 茎葉散布 2回以内
	茎葉の伸長抑制による小型化		スミセブンP液剤	育苗期(本葉2~4葉期及び鉢上後)	10倍 2 mL/株 茎葉散布 2回
バラ	挿し木の発根促進		アルムグリン(液)	挿し木直後から7日毎に5回	500~1000倍 10~20mL/株 茎葉散布 5回以内

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法
パンジー	茎葉の伸長抑制による小型化		スミセブンP液剤	育苗期(本葉2~4葉期)	50~100倍 0.5mL/株 茎葉散布 1回
プリムラ	開花促進	マラコイデス	ジベレリン液剤・[*溶]	11月上旬頃の花蕾出現直後	10~20ppm 2~5mL/株 株の中心部に散布 1回
ベゴニア	さし木の発根促進および発生根数の増加		オキシベロン粉剤0.5	6~7月(夏さし)	「カーネーション」に対する「オキシベロン粉剤0.5」と同じ
ペチュニア	節間の伸長抑制	施設栽培	ビーナイン顆粒水溶剤	①定植後2週間目 ②鉢上げ後	① 100~200倍 50~150L/10a 茎葉散布 1回 ② 200~400倍 50~150L/10a 茎葉散布 4回以内
	茎葉の伸長抑制による小型化		スミセブンP液剤	育苗期(本葉2~4葉期)	25~50倍 0.5~1mL/株 茎葉散布 1回
ホオズキ	着色促進		エスレル10(液)	収穫2~4週間前まで	400~1000倍 果実散布(果面がぬれる程度) 2回以内
マツバボタン	茎葉の伸長抑制による小型化		スミセブンP液剤	育苗期(本葉2~4葉期)	12.5~25倍 0.5~2mL/株 茎葉散布 1回
マリーゴールド	茎葉の伸長抑制による小型化		スミセブンP液剤	育苗期(本葉2~4葉期)	10倍 0.5~2mL/株 茎葉散布 1回
				鉢上後	5~10倍 0.5~2mL/株 茎葉散布 1回
ミヤコワスレ	開花促進 草丈伸長促進		ジベレリン液剤・[*溶]	1月中旬保温開始時期から7~10日間隔	50~100ppm 10~15mL/株 葉面散布 3回
リンドウ	生育促進		ジベレリン[溶]*4	定植直前または定植1~5週間後	100ppm茎葉散布 50~150L/10a 1回

*4:登録の無い商品もあるので注意する。

4. 樹木類に対する植物成長調整剤使用指針

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法
樹木類 (スギ、ヒノキ、イヌツゲ、カイヅカイブキ、キンボウジュ、ウヅ類、ドウダンツツジ、ヒマラヤシダーを除く)	さし木の発根促進及び発生根数の増加		オキシベロン液剤		2倍(1000mL/水1L)5～10秒さし穂基部浸漬または40倍(25mL/水1L)6～24時間さし穂基部浸漬 1回
庭園樹 (マサキ、ジンチョウゲ、アオキ等)	挿し木(挿穂)時処理をして発根を促進する		ルーション(塗)	挿し木時	「花き(きく、ゼラニウム等)」に対する「ルーション(塗)」と同じ
アベリア	新梢伸長抑制及び整枝・剪定軽減		バウンティフロアブル	萌芽前	0.6～1.2mL/m ² 1～5L/樹 土壌灌注 1回
イヌツゲ	新梢伸長抑制及び整枝・剪定軽減		バウンティフロアブル	萌芽前または剪定前	1.6～3.2mL/幹径1cm 1～5L/樹 土壌灌注 1回
	さし木の発根促進及び発生根数の増加		オキシベロン液剤	6～7月(夏さし)	40～80倍(25～12.5mL/水1L)3時間、または原液10秒さし穂基部浸漬 1回
			オキシベロン粉剤0.5	6～7月(夏さし)	「カーネーション」に対する「オキシベロン粉剤0.5」と同じ
キンボウジュ	さし木の発根促進及び発生根数の増加		オキシベロン液剤	6～7月(夏さし)	400倍(2.5mL/水1L)24時間、または原液10秒さし穂基部浸漬 1回
樹木類	新梢伸長抑制及び整枝・刈込・剪定軽減		バウンティフロアブル	新梢伸長開始期又は刈込・剪定後新梢伸長開始期	250～500倍 200～700L/10a 茎葉散布 1回

作物名	使用目的	品種など	薬品名	処理時期	使用方法
ツツジ類*5	さし木の発根促進および発生根数の増加		オキシベロン液剤	6~7月 (夏さし)	40倍(25mL/水1L) 3時間さし穂基部浸漬 1回
			オキシベロン粉剤0.5	6~7月 (夏さし)	「カーネーション」に対する「オキシベロン粉剤0.5」と同じ
	節間伸長抑制(わい化)・着蕾数増加	鉢栽培	スミセブンP液剤	新梢伸長初期	15~20倍、5~10mL/5号鉢(原液0.3~0.5mL/5号鉢) 茎葉散布 2回以内
ツバキ類	さし木の発根促進及び発生根数の増加		オキシベロン粉剤0.5	6~7月 (夏さし)	「カーネーション」に対する「オキシベロン粉剤0.5」と同じ
ドウダンツツジ*5			オキシベロン液剤	6~7月 (夏さし)	2倍(1000mL/水1L)20秒、または40倍(25mL/水1L)3時間さし穂基部浸漬 1回
ハイドラングア	節間伸長抑制	施設栽培	ビーナイン顆粒水溶剤	定植後3~30日又は育苗期摘芯後10~30日	100~200倍 50~150L/10a 茎葉散布 2回以内
ハイビスカス	節間の伸長抑制(矮化)		サイコセル(液)	摘芯(整枝)後側枝5~10cm	250~500倍 6~10mL/株 茎葉散布 1回
ヒペリカム	茎葉の伸長抑制による小型化	鉢栽培	スミセブンP液剤	育苗期(萌芽10日後、萌芽30日後及び萌芽50日後)	12.5~50倍 5~10mL/5号鉢 茎葉散布 3回
ポインセチア	節間の伸長抑制(矮化)	施設栽培	ビーナイン顆粒水溶剤	定植後3~30日	100~200倍 50~150L/10a 茎葉散布 1回
			スミセブンP液剤	摘芯10日後頃	15~25倍 5~10mL/5号鉢 (原液0.3~0.5mL/5号鉢) 茎葉散布 2回以内

*5: ドウダンツツジはツツジ類に含まれない。

5. チャに対する植物成長調整剤使用指針

作物名	使用目的	薬品名	使用時期・使用方法
チャ	さし木の発根促進及び発生根数の増加	オキシベロン液剤	100~200倍 (10~5mL/水1L) 3時間 さし穂全体浸漬 1回

6. 希釈表

①薬剤1単位(錠・包・本)から、所定の濃度の薬液を調製するのに必要な水の量(L)

薬剤名	規格	有効成分量	調製後の薬液の濃度 (ppm)							
			1	3	5	10	25	50	100	400
ジベラ錠	700mg/錠	25mg/錠	25	8.3	5	2.5	1	0.5	0.25	0.0625
ジベレリン錠剤	550mg/錠	25mg/錠	25	8.3	5	2.5	1	0.5	0.25	0.0625
ジベラ錠5	180mg/錠	5mg/錠	5	1.7	1	0.5	0.2	0.1	0.05	0.0125
ジベレリン粉末	1.6g/包	50mg/包	50	16.7	10	5	2	1	0.5	0.125
	6.4g/包	200mg/包	200	66.7	40	20	8	4	2	0.5
フルメット液剤	10mL/本	10mg/本	10	3.3	2	1	0.4	0.2	0.1	0.025

②ジベレリン液剤(ジベレリン0.5%)を所定濃度に調製するのに必要な薬剤の量(mL)

調製後の 希釈液の量	調製後の薬液の濃度 (ppm)							
	1	3	5	10	25	50	100	400
10 L	2	6	10	20	50	100	200	800
18 L	3.6	10.8	18	36	90	180	360	1440
50 L	10	30	50	100	250	500	1000	4000